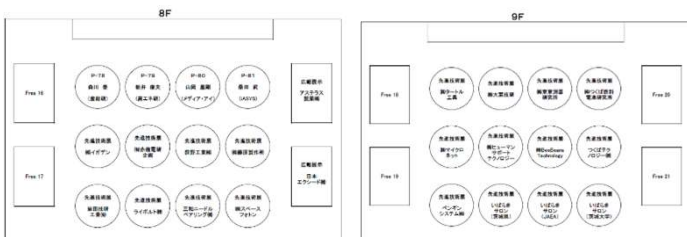


## 研究開発支援型企業技術展示会及び いばらき先進技術展を開催 2021.2.19

本年度は、これまで産総研や原科研で実施していた展示会に代えて、「茨城県研究開発支援型企業技術展示会 on the web & いばらき先進技術展」がオンラインで行われました。いばらき先進技術展は、2月19日、SATテクノロジーショーケースの仮想展示場の8階、9階に設けられました。出展社数は17社で、当日の来場者数は延べ466名でした。

来場者は、画面上のブースをクリックすると、ブース内に入り、出展者と交流できるようになっていました。数社のブースを訪問しましたが、リアルな展示会同様、展示物の見学や出展者への質問などができ、新しい展示会の形を垣間見ることができた展示会となりました。



いばらき先進技術展の会場レイアウト

茨城県研究開発型企業技術展示会 on the webは、右図のようにホームページ上に作られた展示会として、2月19日から3月31日まで閲覧可能となっています。



従来の展示会は主に研究者だけが来場していましたが、今回は広く一般に自由な閲覧が可能となっています。出展社数は8分野42企業となり、リアルな展示会よりも多くの企業が参加しています。



来場者は企業名をクリックすると企業の紹介ページが開き、製品や技術の閲覧、資料の入手が可能となっています。

## 「茨城地区の廃止措置計画」講演会

2021.2.25

2月25日、いばらき成長産業振興協議会と当協議会共催で「日本原子力研究開発機構茨城地区の廃止措置計画」と題して講演会を開催しました。ひたちなかテクノセンターよりオンラインで実施し、参加者は30名でした。

(国研)日本原子力研究開発機構 バックエンド統括本部 廃止措置推進室長 目黒 義弘氏より、茨城地区の廃止措置計画や廃止措置に必要な技術について紹介され、中小企業の参入可能性についてもご講演いただきました。

講演では、まず茨城地区の原科研、核燃料サイクル工学研究所、大洗研の多くの施設が廃止される予定であること、今後廃止措置作業の増加が見込まれることなどが説明されました。廃止措置には準備段階、廃止措置段階で多くの技術が必要となり、廃止措置作業としては、技術提案と施設解体（除染、設備解体・撤去、建物の解体）への参画があり、受け手が不足することが予想され参画可能な企業をいかに増やしていくかが課題であると締めくくられました。

質疑では、企業が参入しやすい環境づくり、必要な教育の提供、必要技術の提供など多くの要望が出ていました。今後、要望が解決され、廃止措置が新しい事業機会になることが期待されます。



目黒 義弘氏



## 量子ビームサイエンスフェスタ開催

2021.3.9~3.11

量子ビームサイエンスフェスタが3月9日から11日まで開催され、会期中の、9日にMLFシンポジウム、11日にはPFシンポジウムが組み込まれて、中性子だけでなく放射光やミュオンなど、量子ビーム全般に係る報告がされました。

MLFシンポジウムでは、コロナ禍でのMLFの取り組みやMLFの中長期計画などが報告されました。コロナ禍対策として遠隔実験、代行実験などの取り組みが報告され、中長期計画では第2ターゲットステーションの計画の説明がありました。

11日のPFシンポジウムでは、PF施設のトピックスやPF将来計画などが報告されました。

10日には、量子ビームサイエンスフェスタのメインイベントとして、量子ビームの協奏的利用による構造物性研究、負ミュオンによる文化財の完全非破壊調査、の2件の基調講演が行われました。その後、ポスターセッション(275件展示)が行われ、その後、CIQuS(量子ビーム連携研究センター)、物性、バイオ、材料科学の4つの分野に分かれたパラレルセッションで、セッションごとに6件の発表が行われました。材料科学のセッションでは茨城大学の西野准教授が「中性子回折を用いた塑性加工製品の内部応力解析」というテーマで当協議会員の利用事例を報告されました。

\*\*\*\*\* J-PARC NEWS 発行 \*\*\*\*\*

J-PARC NEWS 第189号が発行されました。

<https://j-parc.jp/c/topics/2021/01/29000643.html>

J-PARC NEWS 第190号が発行されました。

<https://j-parc.jp/c/topics/2021/02/26000660.html>